

北陸石仏の会々報

第 15 号
平成8年12月24日発行

編集発行

北陸石仏の会 (日本石仏協会北陸支部)

代表 久世 嘉太郎

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

電話 〇七六三―三二―二七二
振替 〇〇七四〇―二二―一九七四

能登・甘田地区の石造物に触て

島 倉 初 美

快晴の青空の下、多くの石仏・板碑・石造物に出会い、暖かい人情に触れた、心に残る例会になりました。

最初は、日蓮宗妙成寺の美しい五重の塔を仰ぎ見ることができました。南北朝・室町時代の年号が刻まれた笠塔婆・石鳥居など歴史のある寺院でした。

火結神社には、大日・阿弥陀双式板碑が大切に安置され、気多神社にもたくさん板碑がありました。薬師堂内には、「妙法蓮華経」と彫られ、正安2年(鎌倉時代)の年号のある板碑が納まっています。ここでも、地域の方々の厚い信仰により、板碑が大切に守られていることに、心温まる思いがしました。

思いがけず、久世会長さんのご親戚筋で、代々十村を勤められたお宅を、拝見する機会を得、近くの公民館で昼食をとりまし

私が、今回特に強く感じ入ったのは、大島海岸の石積六角塔(石幢?)です。どこか、宮沢賢治の世界を彷彿とさせ、すごいエネルギーを感じてしまう不思議な場所でした。室町時代、漁師の女房達が、夫の無事を祈って積み上げた石塔で、他では類を見ないそうです。五面に地藏菩薩像が、一面には板碑がはめ込まれ、今も海に向かって祈りを捧げている様です。

後半は、千鳥ヶ浜の青面金剛・浄真寺の石造物、平家の石造物・遺物を目にする事で、志賀町に対する愛着が一層強くなりました。来る前は、原発のある町という負のイメージしか持ちませんでした。今回の体験により、本当に素朴な信仰心が今も息づいている、貴重な土地柄であることもわかりました。この風土が絶えることなく、私達の心をいやしてくれることを願ってやみません。

合 掌



大沢野町猪谷宝樹寺の

石仏と名号塔

平井 一雄

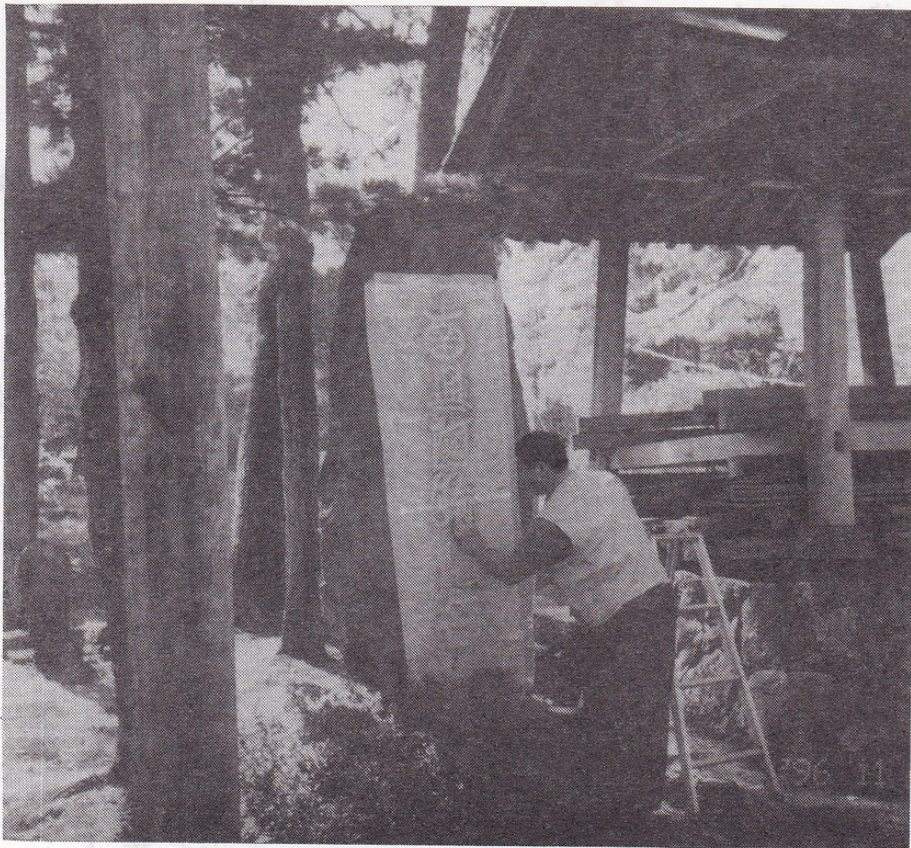
大沢野町猪谷通称東猪谷は野仏の里と近年宣伝され大沢野町の観光名所となっている。昭和四十年代より東街道の石仏を調査・紹介してきた私もそのきっかけを作った一人である。

野仏盗難の誘引となったマイナス面もあるが身近にある文化財に目を向け直し、ふるさと再発見の重要コースとなったことにはささか自負もしている。この地にある浄土宗宝樹寺境内には石仏の里にふさわしく江戸の念仏聖 徳本行者（とくほんぎょうじゃ）の県内では最も大きなものといわれる阿弥陀名号塔（高さ二・八メートル・幅一・八メートル）や明和九年銘の名号塔、地藏、六地藏、勢至菩薩石像、弘法大師石像などの石仏があり、周辺の越中・飛騨東街道の大日如来、馬頭観音、不動明王、道祖神など多種、多様な石仏とともに石仏愛好家の聖地となっている。参道石段のかたわらには、「めぐすりの木」という珍樹木の大本が一本ある。紅葉がすばらしい。

先日、十一月四日「北陸石仏の会」事務局長 尾田武雄氏とともに名号塔の拓本を採ったので報告する。

尾田氏は拓本採りの技術に精通しておられ、砺波市芹谷山千光寺の町石や庄川町三谷の西行歌碑など大型石碑拓本の実績がある。（写真）

下夕南部の石仏を悉皆調査された「野菊の会」の世話役 伊藤



一雄氏も参加された。伊藤氏は宝樹寺の下隣に居住され今回、お寺さんとの折衝で世話になった方である。氏自身も表札の字を書かれるほどの能筆家であるが拓本は初めてということだ。尾田氏の手順を熱心に見つめておられた。

県内に多数の道祖神

金沢の滝本 眞宗盛んな砺波でも さんが調査

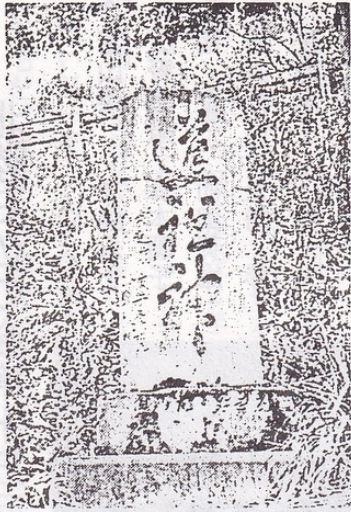
富山では飛騨街道沿いなどわずかしかないといわれていた道祖神像が三十四基以上もあることが、日本石仏協会の滝本靖士さん(金沢市扇町)の調査で分かった。このほど発刊された北陸石仏の会研究紀要創刊号に掲載された。



滝本靖士さん

道祖神は道や園境などで悪霊などが入り込まないよう祭られた神様で、江戸時代初めごろからつくられた。群馬県や長野県に特に多く、関東地方や中部地方では男女二神が手を取り合った形のものもある。

県内では岐阜県から神通川沿いに続く飛騨街道を通じて伝わったものが、大沢野町などにあることは知られていたが、それ以外は眞宗の影響で民間信仰そのものが少なく、道祖神もほとんどないといわれていた。砺波市や利賀村にも、江戸末から明治にかけてつくられたものがあることが分かった。庄川町には昭和二十年建立のものもあった。これまでまったくとされていなかった石川県内でも、加賀市や河内村に各一基があることを突き止めた。滝本さんは「砺波地方といえども眞宗一色ではなく、さまざまな民間信仰が存在していたことが分かった」と話している。



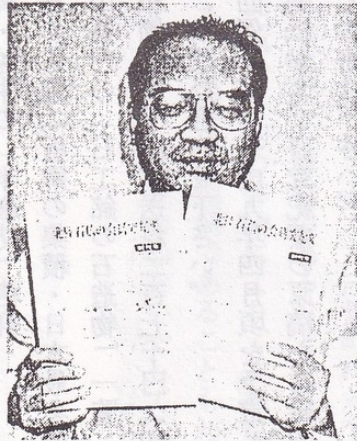
砺波市寺尾の県道沿いにある道祖神。明治20年の建立

▲ 北日本新聞 H 8・11・30より

「北陸石仏の会・研究紀要」
発刊の新聞記事

▼ 富山新聞 H 8・11・30より

「北陸石仏の会研究紀要」創刊号
号を手にする平井編集委員



道祖神などを紹介

北石の陸会「研究紀要」を発行

「北陸石仏の会研究紀要」創刊号が二十九日までに、日本石仏協会北陸支部

・北陸石仏の会によって発行された。富山、石川県で数少ない道祖神の分布や全国的にも珍しい「半僧坊」の調査研究などの労作がまとめられている。

創刊号では、平井一雄編集委員(大沢野町)が「飛騨・越中の半僧坊信仰」を明らかにし、尾田武雄事務局長(砺波市)は庄川町金屋の名工・森川栄次郎などの「石工銘の石造物」一覧を発表した。加藤孝雄さん(東京)は大岩日石寺の大岩不動磨崖群像を「曼陀羅を構成する多尊群像石仏」として全国分布の中でとらえた。滝本靖士編集委員(石川県)は「富山県・石川県の道祖神」を紹介している。

同石仏の会は日本石仏協会の会員を中心に平成四年に結成され、会員は百二十人。富山、石川県が大半を占めており、これまで石仏調査を毎年四回重ね、関東方面の日本石仏協会との交流を深めてきた。

北陸石仏の会第十五回例会出席者

◇富山県 加藤永子

大野猪策 森本朝子

南 金三 前田英雄

前田松代 矢内 彰

矢内孝子 小竹一夫

柳沢栄司 太田幸子

林 貞子 岡田静子

坂田和子 島倉千春

島倉初美

◇石川県 白田博以

上田信子 毛利直枝

小坂俊子 滝本靖士

宮下美和子 久保シズカ 阿部千代子 山崎八洲恵

山崎顕章 久世嘉太郎 板坂顕章 嶋

◇福井県 大杉信子 大久保まさ子 北野正明 北村市朗



第15回例会出席者

ご案内

●『北陸石仏の会研究紀要』創刊号ができました。内容は次のとおりです。

創刊にあたって	北陸石仏の会	会長	久世嘉太郎
創刊を祝して	日本石仏協会	会長	坂口和子

曼荼羅を構成する多尊群像石仏

福井の石仏について思いつくまま

富山県・石川県の道祖神

飛騨・越中の「半僧坊」信仰

粟島の信仰「板碑の集積・日本最多の島」

富山県内の「石工銘の石造物」一覧

頒布価格は千円、送料二百七十円(切手でも可)です。事務局まで、お問い合わせ下さい。

●次回例会は、平成九年四月頃を予定しています。

●機関紙および研究紀要の原稿を常時、募集していますので、どうぞしお寄せ下さい。

東京都 加藤 孝雄

福井県 北村 市朗

石川県 滝本 靖士

富山県 平井 一雄

富山県 梅田 始

富山県 尾田 武雄

〈石仏紹介〉 5

下諏訪に大岩石仏があることは、書物によって以前より知ってはいたが、今年初めてその機会を得た。薄暗い木立の中の細い滝の側に三棟の木堂があり、その中央の堂の中に、



信州下諏訪の大岩不動石仏

上市町の大岩不動の忠実な写しが祀られていた。左の堂には成田の不動を、右の堂には五大力明王が鎮座していた。こんな遠方まで大岩不動が丁寧な祀られていて、感激した。(柳沢 栄司)